

# 中原区におけるソーシャルデザインセンター創出に向けた スケッチブック



令和3（2021）年3月

中原区役所

## はじめに

平成31（2019）年3月に本市が策定した「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」（以下「基本的考え方」といいます。）では、多様な主体の連携により、市民創発によって課題解決する区域レベルの「新たなしくみ」として、地域での様々な活動や価値を生み出し、社会変革（ソーシャルイノベーション）を生み出す基盤（プラットフォーム）となるソーシャルデザインセンター（以下「SDC」といいます。）を創出することとし、その形態は7区横並びに同じものを設けるのではなく、区の独自性を踏まえて検討するものとしています。

中原区役所では、中原区らしいSDCの役割や機能等を検討するため、区内外で市民活動等に取り組む人・団体を対象に、地域の課題や資源、SDCの運営方法や具体的な取組内容などについてインタビュー形式によるヒアリング（聴き取り）を行いました。

この「中原区におけるソーシャルデザインセンター創出に向けたスケッチブック」（以下「SDC創出に向けたスケッチブック」といいます。）は、ヒアリングから得られたSDCに求める意見・アイデア等を踏まえて、中原区におけるSDC創出の方向性をとりまとめたものです。今後も引き続き、持続可能な暮らしやすい中原区のまちづくりに向けて、中原区らしいSDCの創出に向けた取り組みを進めてまいります。

このスケッチブックを生かして、中原区の将来像をみんなで描いてみませんか。

## 目 次

- 1 中原区らしい SDC に求められるもの (P.3)
    - (1) 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく中原区における検討 (P.3)
    - (2) 中原区における SDC の設立理念 (P.3)
    - (3) 基本的な機能 (P.5)
      - ア 人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能 (P.7)
      - イ 支援のニーズ(活動支援、資金助成、相談、情報収集)とメニューの効果的なマッチング (P.8)
      - ウ 地域課題の解決を目指した社会実験の展開 (P.8)
      - エ 地域からの視点や市民の立場に立って、助言や専門的知識を活かした技術的支援、課題提起等を行う機能 (P.9)
      - オ 人材育成(地域の担い手や社会的起業家など) (P.10)
      - カ 「まちのひろば」への支援 (P.10)
      - キ 地域メディアやソーシャルメディアを活用した情報の受発信 (P.11)
      - ク 新たな参加、交流のきっかけづくり (P.12)
      - ケ 各区の特性に応じて必要とされる機能 (P.13)
    - (4) SDC の機能検討の留意点 (P.14)
  - 2 運営の考え方 (P.15)
    - (1) 運営主体 (P.15)
    - (2) 自立的運営の確保 (P.16)
    - (3) 検証・評価・見直し (P.17)
  - 3 運営に必要な場所について (P.17)
  - 4 運営日・運営時間 (P.19)
  - 5 SDC と「地域レベル」、「市域レベル」のしくみとの関係 (P.20)
    - (1) SDC と「まちのひろば」との関係 (P.20)
    - (2) SDC と市域レベルの「中間支援組織」の関係 (P.20)
  - 6 中原区らしいSDCのスケッチ (P.21)
  - 7 今後の検討の進め方(予定) (P.22)
- 参考 SDC と地域との関係イメージ (P.23)

## 1 中原区らしい SDC に求められるもの

### (1) 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく中原区における検討

川崎市では、多様な主体が連携した「市民創発」という考え方を取り入れた「基本的考え方」を平成31（2019）年3月に策定しました。

中原区役所では、この「基本的考え方」に基づき、誰もが生きがいを持ち、幸せを感じられる地域社会を目指し、まちづくりへの参加やコミュニティの形成などをより活性化させる「新たなしくみ」である区域レベルのプラットフォーム SDC の創出に向けて検討を始めました。

「基本的考え方」では、SDC は「市民自治と多様な価値観を基盤とするこれからの都市型コミュニティを目指して、多様な主体の連携により、市民創発によって課題解決する区域レベルの『新たなしくみ』として、地域での様々な新しい活動や価値を生み出し、社会変革（ソーシャルイノベーション）を促す基盤（プラットフォーム）」とされています。

また、「希望のシナリオ」のイメージのイラストへの添え書きでは、SDC は、「人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能やプロデュース機能などを有し、まちにちょっと新しい何かを生み出す空間です」と説明されています。

中原区役所では、SDC の形態は「7 区横並びに同じものを設けるのではなく、区の独自性を踏まえて検討」するとされていることから、地域で活動する人・団体の目線で、中原区らしい SDC を創出するため、SDC に期待する役割や具体的な機能、運営主体、行政の関わり方などについて、区内外で市民活動等に取り組んでいる人や団体を対象に、インタビュー形式によるヒアリングを行い、「新たなしくみ」へのニーズを確認するとともに、SDC の創出に向けた意見やアイデア等を把握しました。

この「SDC 創出に向けたスケッチブック」は、これまでのヒアリング結果を踏まえて、今後の中原区における SDC 創出の議論のたたき台とするため、その内容をとりまとめたものです。

今後も中原区らしい SDC の創出に向けた取り組みを進めてまいります。

### (2) 中原区における SDC の設立理念

SDC は市民創発によって課題解決する区域レベルの新たな仕組みとしての基盤です。設立に向けては地域のニーズを知り、そもそも市民創発を生み出す土壌となる地域コミュニティはどのようなものを目指すのか、「新たなしくみ」に関わる全ての主体と共有することが重要です。

たとえば、中原区役所が区民と作り上げた「みんなでつくる中原区地区カルテ」（令和元年9月版）には、ヒアリングなどを通じて集まった区民の声「10年後に向けた望ましいまちの姿」を載せています。

それを参考にしつつ、試みに設立理念を考えてみました。これはあくまで SDC の検討をするための下書きです。これから区民の皆様が思い描く SDC となるようにたくさん書き直していきましょう。

「地域で活発に行事やイベントが行われ、気軽に参加できることで、プライベートが守られていながらも、高齢者から子どもまで、声を掛け合える、助け合える関係ができる、安心でやさしいまち」

参加と協働による地域課題の解決の「新たなしくみ」、区域レベルの「新たなしくみ」である SDC の創出に当たっては、コミュニティとして目指すものを明らかにし、区民の皆様とその目的に向かい取り組みを推進する SDC であるために、中原区におけるより具体的な SDC の設立理念の検討を進めていく必要があります。

コミュニティ施策の基本的考え方や SDC は抽象的な概念であるため、すべての住民が関わるには、できるだけイメージを具体化し、分かりやすい理念とすることが極めて重要です。

#### 中原区における SDC の設立理念の検討手順

- STEP 1 コミュニティ施策の目的の共有
- STEP 2 コミュニティ支援に必要な取り組みの検討
- STEP 3 SDC として取り組む方針の検討
- STEP 4 SDC として取り組む方針の決定【SDC 設立理念の決定】

「10年後に向けた望ましいまちの姿」（みんなで作る中原区地区カルテ【令和元年9月版】）

（つながり・コミュニティ）

- 明るく元気で活気があり、居心地の良いまち
- 隣近所で声をかけ合えるまち
- 地域や近所で見守りのあるまち
- “ちょっと助けて”声がかげ合えるまち
- 隣の人と話ができるまち
- 笑顔であいさつしあえるまち
- ニコニコと笑顔があふれるまち
- 世代間交流がさかんなまち
- 小学生や中学生が各家に気軽に立ち寄れて、高齢者の見守りができる
- ひとり高齢者やひとり親などへのゆるやかな支援ができるまち
- 誰もが困っている人を気にかけてもらえるまち
- 子どもの声がうるさいなど、ギクシャクした社会ではなく、寛容の社会になりますように  
皆が子どもの成長をあたかく見守っているまち
- おせっかいが重宝される町内会で暮らしたい（自分がかかわる側）
- 隣近所で助け合える関係づくりができる
- 子どもと大人、高齢者がふれあえる場が増える
- まちを歩く人が笑顔で挨拶するニコニコなまち
- お互い様が通用する地域である
- 近所に助け合える関係の人がいる
- コミュニケーションサロンなどあり、話し合える場所がある
- おしょうゆを貸し借りできるようなまち
- 楽しく飲みに行く所が多いまち
- 買い物や駅まで行く間に何人も知り合いに会い、あいさつできるまち
- 道ばたであいさつできるまち
- 隣近所の助け合い、実行出来ると思います
- 近所の人達の集合場所になりたい
- 近所に住む人達と声かけができる関係が続いているといいな
- いざ！という時には隣近所で声を掛け助け合えるまち



### (3) 基本的な機能

「基本的考え方」では、SDC の基本的な機能として 9 つの機能を例示しています。また、その機能については、SDC の開設後に「検証しながら徐々に高次機能を付加していくことが考えられる」としています。

#### 「基本的考え方」に示されている SDC の基本的な機能

- ア 人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能
- イ 支援のニーズ（活動支援、資金助成、相談、情報収集）とメニューの効果的なマッチング
- ウ 地域課題の解決を目指した社会実験の展開
- エ 地域からの視点や市民の立場に立って、助言や専門的知識を活かした技術的支援、課題提起等を行う機能
- オ 人材育成（地域の担い手や社会的起業家など）
- カ 「まちのひろば」への支援
- キ 地域メディアやソーシャルメディアを活用した情報の受発信
- ク 新たな参加、交流のきっかけづくり
- ケ 各区の特性に応じて必要とされる機能 等

中原区役所では、区内外で市民活動等に取り組んでいる人や団体にヒアリングを行い、頂いた意見やアイデア等を踏まえて、中原区の SDC が担うべき機能の内容や想定される具体的な取り組みを次のとおり、とりまとめました。

## ア 人や団体・企業、資源・活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能

- SDCは、人と人、人と活動や団体をつなぎ、様々な活動の担い手の特性を活かしながら、地域活動等の円滑化や活性化を促せるようコーディネートしていきます。
- SDCは、地域の活動が活発化し、広がることを目的として、個人や団体が交流することを促します。
- 地域の活動に役立つ情報を収集することで、何かあったときはSDCに行ってみようということになり、区民や様々な団体が集まり、つながることのできる場として、そのコーディネート機能を高めていくことが望まれます。
- SDCは、地域課題に対する当事者が集まり、連携や市民創発を生み出すことで、地域課題の解決につながるよう支援するため、企画・プロデュースを行います。

### 想定される具体的な取組

相談窓口、情報コーナー、インターネットでの相談、地域人材バンク、プロボノ、会議室、カフェ、キッチン、コワーキングスペース、情報収集・整理・発信、他の施設・団体への訪問等による情報共有、行政との情報共有、交流イベント、他の施設・団体との共催イベント、地域の資源マップ、コーディネーターの配置

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ 横のコンテンツ（イベントプロデュース）と縦の活動スペース（会議室・フリースペース）をつないでいく。横と縦の関係をいくつかネットワーク化する。テニスラケットのガットのようイメージ。どのような活動をしているか分かるような仕組みが必要。SDCに相談すれば、人・場を紹介してもらえるようなイメージ。たとえば、音楽活動やりたい→「〇〇さんに相談したらどう？」とか「〇〇でなら活動できそうだよ。」
- ・ 団体理事や店長間でカフェ利用者の特徴・得意分野を情報共有し、地域活動団体から求められる人材を紹介できるようにしている。そこから、新たな活動として、リフレクソロジー（足裏マッサージ）などの取り組みが生まれた。
- ・ 主な活動内容として、①情報・相談、②ネットワーク構築、③講座・イベント、④活動拠点の貸出しがある。特に①の情報・相談が大切。区民が新たな活動を始める際の相談役として、区内にはこういった人がいるという、つなぎ役を担っている。いかに地域との顔つなぎができていくか、どれだけキーパーソンを知っているかが重要。
- ・ 雑談レベルのふとした会話から、その人のニーズに合わせて、センターに登録している団体・人や地域包括ケア支援施設、地区社協などへつないでいる。
- ・ 仕事や趣味で培った自身の経験・知識・技術を地域活動に役立てるボランティア人材の登録制度を持っている。登録された人材を、講師を探している団体などに紹介している。
- ・ 人が集まり、会話ができて、そこに行けば情報があり、定期的にイベントがあるような場が必要である。キッチンがあればなお良い。とりあえず来てみたら何かやっているイメージ。
- ・ 他の団体の人を講師として招き、また自らが他の団体に講師として活動に参加するなど、市民活動団体同士がつながれるきっかけがあれば、自分たちでコーディネートやプロデュースしていけるのではないか。
- ・ カフェは人と人との交流が生まれるモーターの役割を果たしている。
- ・ カフェの運営をする中で、参加者やボランティアの得意分野が見つかり、新たな活動につながっている。
- ・ 連続講座をゼミ形式で実施したが、回を重ねるごとに、参加者がお互いを名前で呼び合うなど、交流が生まれた。



## イ 支援のニーズ（活動支援、資金助成、相談、情報収集）とメニューの効果的なマッチング

- SDCは、地域で活動を行う上で必要なヒト・モノ・カネなどの情報を、必要とする人や団体に的確に提供することで、地域活動等の円滑化や活性化につなげるマッチングを行います。

### 想定される具体的な取組

相談窓口、情報コーナー、インターネットでの相談、地域人材バンク、プロボノ、会議室、カフェ、使い勝手の良い資金助成、情報収集・整理・発信、他の施設・団体への訪問等による情報共有、交流イベント、他の施設・団体との共催イベント、地域の資源マップ、コーディネーターの配置

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ 主な活動内容として、①情報・相談、②ネットワーク構築、③講座・イベント、④活動拠点の貸出がある。特に①の情報・相談が大切。区民が新たな活動を始める際の相談役として、区内にはこういった人がいるという、つなぎ役を担っている。いかに地域との顔つなぎができるか、どれだけキーパーソンを知っているかが重要。
- ・ SDCに行けば（アクセスすれば）、自分が興味を持てる情報が得られるという認識が広まれば、利用が増えるのでは。
- ・ 人が集まり、会話ができて、そこに行けば情報があり、定期的にイベントがあるような場が必要である。キッチンがあればなお良い。とりあえず来てみたら何かやっているイメージ。
- ・ SDCの利用者会員になると安く飲食ができて、楽しいイベント情報が手に入る。
- ・ こんなところに、こういったイベント・スペースがあると分かる一覧が必要であると思う。SDCには、情報がワンストップでまとまっているとよい。そうすることで、情報を掲載したい団体も集まってくると思う。
- ・ 活動する場所がなければ、活動支援や資金助成が十分なものであっても利用できない。まずは活動できる場の支援が必要である。
- ・ 「かわさき市民公益活動助成金」（かわさき市民活動センター）や「ボランティア銀行なかはら福祉活動助成」（川崎市中原区社会福祉協議会）の資金助成が広く知られているが、申請や報告が面倒である。この2つの資金助成制度と「中原区市民提案型事業」について、申請する際には比較検討している。
- ・ カフェは人と人との交流が生まれるモーターの役割を果たしている。
- ・ カフェの運営をする中で、参加者やボランティアの得意分野が見つかり、新たな活動につながっている。
- ・ 連続講座をゼミ形式で実施したが、回を重ねるごとに、参加者がお互いを名前で呼び合うなど、交流が生まれた。
- ・ 地域で活動をする際に、活動場所が見つからず困っている。どこかに相談できるとよい。
- ・ 基本的に行政や社協等からの助成金等に頼らず活動している。会場使用料が発生しない活動場所を探している。
- ・ 空き家・空き店舗の情報が把握されているとよい。SDCが活動できる場所と活動したい人の発掘を進めて、マッチングができるとよいと思う。

## ウ 地域課題の解決を目指した社会実験の展開

- SDCは、地域、団体、行政、企業等と連携して、地域課題の解決につながる社会実験に取り組むことが考えられます。

### 想定される具体的な取組

他の施設・団体への訪問等による情報共有、行政との情報共有、情報収集・整理・発信、地域人材バンク、交流イベント、他の施設・団体との共催イベント、調査・研究・実験、地域の資源マップ

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ 中原区市民提案型事業や地域包括ケアシステムの取り組みを活用して、団体の事業を実施したことがあるが、「地域課題の解決＝団体活動」ではない。あくまでも自分たちのやりたい活動であって、結果としてそれが地域課題の解決につながっている。
- ・ SDCにおいて、ミシン・カフェ（ミシンがあるコワーキングスペースのこと、利用料を取る）を開いてはどうか。
- ・ ミシンを物置から出すのが面倒な人や、ミシンを使いたい子育て世代の人などを対象に、みんなでものづくりをする。
- ・ ミシン・カフェでは、ミシンが自由に使えるほか、ものづくりのワークショップなどを開催する。
- ・ 市民活動センターが実施している「ごえんカフェ（交流会）」の中原区版を開催してもよいと思う。活動している人と人がつながる場があるとよいと思う。
- ・ カフェは常時運営されているとよい。活動団体と連携して、週1回はこども食堂の機能を入れてはどうか。
- ・ 空き家・空き店舗の情報が把握されているとよい。SDCが活動できる場所と活動したい人の発掘を進めて、マッチングができるとよいと思う。
- ・ 空き家や古民家をうまく活用していきたいという思いがある。男性の高齢者は自宅に籠もりがち。男性の高齢者が集まれる場所がほしい。囲碁や麻雀ができて、飲食できるような場所が必要ではないか。
- ・ 空き家や古民家を使えば、近場で集まれる。そういった場所を増やしていきたい。
- ・ 引きこもりの方の家族が相談をしたり、集まれる場があるとよい。
- ・ 地区には畑が残っているため、シェア畑の取り組みはよいかもしれない。

### エ 地域からの視点や市民の立場に立つて、助言や専門的知識を活かした技術的支援、課題提起等を行う機能

- 地域で活動を行っていく上で、専門家による助言や経験者のアドバイスが必要な場合があります。SDCは、さまざまな相談に応じて、知識・スキルを持つ人・団体につなぎ、活動したい思いを素早く実践に結び付けられるよう支援を行います。

### 想定される具体的な取組

相談窓口、情報コーナー、インターネットでの相談、地域人材バンク、プロボノ、カフェ、法律・会計・税務相談、調査・研究・実験、地域の資源マップ

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ 新しい団体・イベントを立ち上げたい人を対象に、実現できるまでサポートしている。
- ・ 行政では、市民活動団体と一緒に伴走するのは難しいため、SDCには伴走支援をしてほしい。
- ・ 地域のイベントや団体交流にも積極的に顔を出してきた。それまでは、地域での認知度はそれほど高くなかったが、営業活動をした結果、年間利用者数が増えた。年間相談件数も増加した。
- ・ NPOの法人格を取得するには法律や財務の知識が必要である。

- ・ 地域で活動をする際に、活動場所が見つからず困っている。どこかに相談できるとよい。
- ・ 空き家・空き店舗の情報が把握されているとよい。SDCが活動できる場所と活動したい人の発掘を進めて、マッチングができるとよいと思う。
- ・ 引きこもりの方の家族が相談をしたり、集まれる場があるとよい。
- ・ 地区には畑が残っているため、シェア畑の取り組みはよいかもしれない。

## オ 人材育成（地域の担い手や社会的起業家など）

- SDCは、自分の知識と経験を活かし、社会貢献したいという地域の多様な人材が活躍できるよう、地域の担い手や社会的起業家などを育成する仕組みをつくります。
- SDCは、市民活動等の新たな担い手を発掘するため、地域のイベント等に積極的に参加するなど、人材の発掘に取り組み、活動団体のニーズと人材をマッチングさせる仕組みをつくります。

### 想定される具体的な取組

体験講座、人材育成講座・研修、相談窓口、情報コーナー、インターネットでの相談、地域人材バンク、プロボノ、情報収集・整理・発信、他の施設・団体への訪問等による情報共有、交流イベント、他の施設・団体との共催イベント、地域の資源マップ

（ヒアリングで出された意見・アイデア等）

- ・ 団体内部（理事や店長間）でカフェ利用者の特徴・得意分野を情報共有し、地域活動団体から求められる人材を紹介できるようにしている。そこから、新たな活動・取り組みが生まれた。
- ・ センターを会場として、登録団体による自主事業・イベントが開催されている。イベント内容は団体に一任しているが、広報を行うなどの支援を行っている。
- ・ 開催するイベントの講師には、団体からは交通費のみ支給し、謝礼は支払っていない。参加費は直接講師に支払う。イベント会場として利用する場合に会場使用料は徴収していない。
- ・ 仕事や趣味で培った自身の経験・知識・技術を地域活動に役立てるボランティア人材の登録制度がある。登録された人材を、講師を探している団体などに紹介している。
- ・ 新しい団体・イベントを立ち上げたい人を対象に、実現できるまでサポートしている。
- ・ 行政であると、市民活動団体と一緒に伴走するのは難しいため、SDCには伴走支援をしてほしい。
- ・ 転入した子育て世代の人は、身寄りがいないため、必要な情報を集めるのに苦労している。ママ友はどこで作れるか、自分の居場所はどこにあるか等を気にしている。
- ・ イベントに参加することで、自分の居場所が見つかり、イベントへの再訪につながっている。
- ・ 子育てイベントの参加者は、子育てを卒業した参加者には、運営側に回ってほしいと考えているが、中原区の地域特性として難しいと思う。
- ・ カフェの運営をする中で、参加者やボランティアの得意分野が見つかり、新たな活動につながっている。

## カ 「まちのひろば」への支援

- SDCは、いつでも気軽に立ち寄れる地域の居場所「まちのひろば」を新たに立ち上げる自主的・主体的な活動に対して、相談・情報提供を行うなど支援します。

- また、すでに活動している「まちのひろば」を広報するなど、その活動がより一層充実するよう支援を行います。

#### 想定される具体的な取組

相談窓口、情報コーナー、インターネットでの相談、地域人材バンク、プロボノ、情報収集・整理・発信、人材育成講座・研修、交流イベント、他の施設・団体への訪問等による情報共有、行政との情報共有、体験講座、地域の資源マップ、ニュースレターや冊子の発行、ホームページの活用、メールマガジンの発行、会議室、印刷コーナー、貸ロッカー、メールボックス、コーディネーターの配置

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ SDCやまちのひろばへの加入制度はいらないと思う。
- ・ 市民活動団体が団体登録すると、①ミーティングスペースの予約ができる、②講座や交流会の情報提供、③団体情報を冊子やホームページ等で周知してもらえるメリットがある。その他に、展示スペースや印刷スペース、グループボックス（物品保管、郵便物の受取）、機材貸出（パソコン、プロジェクターなど）などの支援も受けられる。
- ・ 仕事や趣味で培った自身の経験・知識・技術を地域活動に役立てるボランティア人材の登録制度がある。登録された人材を、講師を探している団体などに紹介している。
- ・ SDCの利用者会員になると安く飲食ができて、楽しいイベント情報が手に入る。
- ・ 新しい団体・イベントを立ち上げたい人を対象に、実現できるまでサポートしている。
- ・ 行政であると、市民活動団体と一緒に伴走するのは難しいため、SDCには伴走支援してほしい。

#### キ 地域メディアやソーシャルメディアを活用した情報の受発信

- 地域で活動を行う上で、地域情報や団体情報、人材情報、イベント情報など「情報」が重要になります。SDCは、地域メディアや行政と連携し、効果的に情報収集・発信できる仕組みづくりに取り組みます。
- SDCは、チラシや広報紙などの紙媒体に加えて、パソコンやスマートフォン等を用いて、情報提供するSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用して、必要とする人に必要な情報が確実に届くよう取り組みを行います。

#### 想定される具体的な取組

情報コーナー、インターネットでの相談、情報収集・整理・発信、地域メディアの活用（なかはらメディアネットワークとの連携）、ホームページの活用、メールマガジンの発行、フェイスブック・インスタグラム・ツイッターの活用、ニュースレターや冊子の発行、行政と広報で連携（区役所へのチラシの配架等）

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ 地域の情報紙を発行しているが、情報紙への広告掲載料で、印刷代をまかなっている。広告を出す企業にとっても、情報紙に掲載されることが地域貢献になる。
- ・ 情報紙への広告掲載について、団体設立当初は企業に対して営業をかけていたが、少しずつ地域に浸透していき、今は営業をしていない。団体としては、さらに広告収入を増やしたいと考えている。
- ・ 団体の存在を地域に浸透させるために、あらゆる広報努力を重ねてきた。ホームページ、フェイスブック、市政だより、町内会・自治会でのチラシ回覧のほか、地域のイベントや団体交流にも積極的に顔を出してきた。
- ・ こんなところで、こういったイベント・スペースがあるといった一覧が必要。SDCであれば、ワンストップで情報がまとま

っているとよい。そうすることで、そこに情報を掲載したい団体も集まるのでは。

- ・ ホームページ、InstagramやTwitterなどあらゆる広報手段を使っている。
- ・ 重点エリアには紙媒体を含めて広報を強化し、その他のエリアではウェブ上のみで周知する等、メリハリをつけた広報を実施している。
- ・ SNSでの広報を想定している。ターゲットを絞って広報していく予定。
- ・ 地域振興課が委託している区民活動支援コーナー「なかはらつば」は、市民に知られていないと思う。自分で情報を探しにいかなければ見つからないため、プッシュ型の広報が必要と思う。
- ・ 区役所のお墨付きを得られたイベントであると、公共施設等への広報物の配架をお願いしやすい。
- ・ 企業がSDCのホームページ上にイベント情報等を掲載する際に、SDCは掲載希望企業からお金を取ってもよいと思う。SDCの媒体に掲載される情報は信頼できるという認識が広まれば、掲載料を支払ってでも、イベント情報を載せたいと思うはず。さらに、掲載した団体は、イベント情報への1アクセスにつき、追加で掲載料を支払うような仕組みも考えられる。
- ・ ワークショップや自然体験、まち歩きなど地域体験のCtoC（個人間取引）マッチングサービスのアプリが参考になると思う。
- ・ SDCにスポンサーを付けてもよい。SDCの会員カードに、中原区で活動している川崎フロンターレやNECレッドロケッツ等のロゴを入れてみたり、会員カードがあれば何かしらの特典を持たせてもよい。区内には多くの企業やスポーツチームがあるため、そこと連携して広報してみるのもよい。
- ・ 多くの人が集まる場やイベントにおいて、SDCを紹介すると区民から認知され易いと思う。何らかのイベントと抱き合わせで広報していくイメージ。ちょっとした買い物のついでに、寄れるようなイベントが効果的と思う。
- ・ SDCには、地区ごとに情報が得られるチラシ用のラックがあるとよい。
- ・ 広報する上では、紙媒体のチラシも必要と思う。すべてがインターネットやSNSからの広報にしてしまうと、アクセスできない人もいるはずなので、紙媒体も残した方がよいと思う。チラシであると読み返しやすく、忘れられなさそう。
- ・ 行政はハードルが高い印象がある。チラシを配布する場合に、行政へお願いしてよいか悩んでいる人が多い。
- ・ 地域新聞にカフェのバリスタ養成講座の案内を掲載することで、多くの受講者が集まった。
- ・ 地域新聞は区民に読まれていると思う。市政だよりも反響がある印象がある。
- ・ 高齢者と若年者とは、情報収集・発信方法についてのギャップがある。高齢者にとっては、なじみのある紙媒体のチラシではなく、HPから必要な情報を得ることに抵抗がある方もいる。

## ク 新たな参加、交流のきっかけづくり

- SDCは、いろいろな分野の団体や地域貢献活動に取り組む企業、地域を良くする取り組みに関心がある人が気軽に集まり、新しいつながりや「顔の見える関係」が生まれる、参加や交流の仕組みをつくります。

### 想定される具体的な取組

相談窓口、情報コーナー、インターネットでの相談、地域人材バンク、プロボノ、会議室、カフェ、キッチン、コワーキングスペース、情報収集・整理・発信、他の施設・団体への訪問等による情報共有、交流イベント、他の施設・団体との共催イベント、地域の資源マップ、コーディネーターの配置

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ 中原区で活動している団体や個人がかけ合わせる「ミーティングの場」が必要であると思う。月1回くらい集まれる

場がよい。

- ・ 人が集まり、会話ができ、そこに行けば情報があり、定期的にイベントがあるような場が必要である。キッチンがあればなお良い。とりあえず来てみたら何かやっているイメージ。
- ・ こんなところに、こういったイベント・スペースがあると分かる一覧が必要であると思う。SDCには、情報がワンストップでまとまっているとよい。そうすることで、情報を掲載したい団体も集まってくると思う。
- ・ SDCにおいて、ミシン・カフェを開いてはどうか。
- ・ ミシンを物置から出すのが面倒な人や、ミシンを使いたい子育て世代の人などを対象に、みんなでものづくりをする。
- ・ ミシン・カフェでは、ミシンが自由に使えるほか、ものづくりのワークショップなどを開催する。
- ・ かわさき市民活動センターが実施している「ごえんカフェ（交流会）」の中原区版を開催してもよいと思う。活動している人と人がつながる場があるとよいと思う。
- ・ 個人の「家」を地域のために開放することで、交流（コミュニティ）が自然に生まれている。
- ・ カフェは人と人との交流が生まれるモーターの役割を果たしている。
- ・ カフェの運営をする中で、参加者やボランティアの得意分野が見つかり、新たな活動につながっている。
- ・ 連続講座をゼミ形式で実施したが、回を重ねるごとに、参加者がお互いを名前で呼び合うなど、交流が生まれた。
- ・ 空き家・空き店舗の情報が把握されているとよい。SDCが活動できる場所と活動したい人の発掘を進めて、マッチングができるとよいと思う。
- ・ 空き家や古民家をうまく活用していきたいという思いがある。男性の高齢者は自宅に籠もりがち。男性の高齢者が集まれる場所がほしい。囲碁や麻雀ができて、飲食できるような場所が必要ではないか。
- ・ 空き家や古民家を使えば、近場で集まれる。そういった場所を増やしていきたい。

## ケ 各区の特性に応じて必要とされる機能

- SDC は、公益財団法人かわさき市民活動センター、社会福祉法人川崎市社会福祉協議会、公益財団法人川崎市市民自治財団など、川崎市の出資法人が区内に立地している地の利も生かして連携に取り組みます。
- 中原区内には企業・商業施設が集積しています。近年では企業等がSDGsや地域貢献活動に取り組むなど地域での活動主体の形態や活動の幅が広がってきています。SDCは、立地する企業等や地域で働く人との顔の見える関係づくりを行うなど、多様な主体との連携に取り組みます。

### 想定される具体的な取組

他の施設・団体への訪問等による情報共有、交流イベント、企業・出資法人等との共催イベント、相談窓口、情報コーナー、インターネットでの相談、地域人材バンク、交流イベント、他の施設・団体との共催イベント、地域の資源マップ、行政との情報共有

町内会館や自宅  
を活用したカフェ

（ヒアリングで出された意見・アイデア等）

- ・ 中原区にはかわさき市民活動センターがあるので、その機能があれば中原区にはSDCは必要ない。
- ・ 区内には、国際交流センターがあるため、多文化共生の機能を持たせてもよい。外国・日本の文化を学べる日を設ける等、イベントを開催していく。SDCが会場使用料や参加費を徴収するイメージ。



- ・ 町内会・自治会とは、関わりがないわけではない。目的に応じて、町内会・自治会とは連携しているが、全ての分野で連携する必要はないと考えている。
- ・ 転入した子育て世代の人は、知り合いがいないため、必要な情報を集めるのに苦労している。ママ友はどこで作れるか、自分の居場所はどこにあるか等を気にしている。
- ・ 子育てイベントに参加することで、自分の居場所が見つかり、イベントへの再訪につながっている。
- ・ 子育てイベントの参加者は、子育てを卒業した参加者には、運営側に回って欲しいと考えているが、中原区の地域特性として難しいと思う。
- ・ 区役所に相談するのは敷居が高いため、子育て支援センターに相談に来られる方が多いと感じる。
- ・ 地域で活動をする際に、活動場所が見つからず困っている。どこかに相談できるとよい。
- ・ 基本的に行政や社協等からの助成金等に頼らず活動している。会場使用料が発生しない活動場所を探している。
- ・ カフェは常時運営されているとよい。活動団体と連携して、週1回はこども食堂の機能を入れてはどうか。
- ・ 空き家・空き店舗の情報が把握されているとよい。SDCが活動できる場所と活動したい人の発掘を進めて、マッチングができるとよいと思う。
- ・ 空き家や古民家をうまく活用していきたいという思いがある。男性の高齢者は自宅に籠もりがち。男性の高齢者が集まれる場所がほしい。囲碁や麻雀ができて、飲食できるような場所が必要ではないか。
- ・ 空き家や古民家を使えば、近場で集まれる。そういった場所を増やしていきたい。
- ・ 引きこもりの方の家族が相談をしたり、集まれる場があるとよい。
- ・ 地区には畑が残っているため、シェア畑の取り組みはよいかもしれない。



コワーキングスペース

#### (4) SDC の機能検討の際に気をつける点

これから中原区役所と区民の皆様で、このスケッチを参考に自由に色を塗ったり、時にはスケッチとは違う線を引いたりしながら、皆様が思い描く中原区らしい SDC の姿をデザインしましょう。

描き方は自由ですが、色々な方々と一緒に完成させるために次の点に注意しましょう。

#### 💡 ここがポイント！

- ① 基本的考え方に示されている機能(6ページ)のすべてを SDC の機能とする必要はありません。
- ② 「これが欲しい」、「無いよりは有ったらいいな」といった個人的な要望は SDC の機能としません。
- ③ 特定の団体等が実施できるという理由では SDC の機能としません。
- ④ 「まちのひろば」への支援も SDC 機能として例示されていますが、まちのひろばに必要な機能と SDC 自体の機能とは別物です。話し合いの際は SDC として必要な機能を考えましょう。(単に活動の場や助成金の要望にならないように気を付けましょう)

## 2 運営の考え方

### (1) 運営主体

決定されたSDC機能は、NPO法人等の団体が実施することを目標とします。

「基本的考え方」では、「市民主体の運営を理想」としています。しかし、「立ち上げ段階において、ボランティア組織による持続的な運営は困難であると考えられることから、専門的な知識と技術を有するNPO法人等による運営も考慮しながら、行政として必要な支援を行います」としています。

SDC実施主体に対し、行政による初期の支援としては、「専門性の高いコーディネーター」や「有償によるスタッフ」の配置、「地域人材の活用」について支援するとしています。しかし、行政主導の関わり方である「行政事務局の設置」や、「いわゆる官製NPOの設立」はしないとしています。

また、SDC機能を担う実施主体が選定された場合は、行政として必要な支援を行うための要件として、運営に際し、①民主的な意思決定プロセス、②明朗な会計管理、③活動内容の透明性・説明責任等を大切にすることが必要であると考えます。

SDCの立ち上げが進められている多摩区においては、SDC運営組織と区役所が共に地域の課題解決を目指す協働のパートナーとして「協定書」を締結するという方法によって、自主・自立的なSDCの運営を基本としながら、多摩区役所が「SDCの運営に当たって求める留意点」等について担保を図っています。このような事例も参考にしながら、中原区においても行政として必要な支援を検討する必要があります。

(参考) 多摩区におけるソーシャルデザインセンター開設案 (令和元(2019)年11月) より

(SDCの運営に当たって求める留意点)

- 情報の共有と話し合いを大切にすること
- 公平、公正、中立を旨とし、区民の信頼に応えること
- 運営組織自らも学び、研鑽に励むこと
- 区民や団体の実際の声をよく聞き、課題の解決に向けて、真摯に取り組むこと
- 特定の団体や個人に対して利益の供与をしないこと
- 本開設案を踏まえた運営計画の策定や組織整備を行うこと
- 事業の検証を行い、発展に努めること
- 自主財源の確保に努めること (運営に係る補助金を交付する場合、補助額は漸減し、交付する期間についても期限を設ける。)
- 町内会・自治会やNPO 法人など地域で活動する様々な団体や企業・大学との関係づくりに努め、連携を模索するとともに、組織自体の発展にも努めること

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ SDCや「まちのひろば」は、物理的な「場」でなくてもよい。物理的な場よりも、「人とのつながり」が大切。場ではなく仕組みを示す「まちの人・和」といったキーワードはどうか。人がつながるための事務局機能をSDCが担うと位置付けてはどうか。事務局機能には物理的な場所が必要であるから、かわさき市民活動センターが担うこともありだと思ふ。



- ・ SDCを運営する際に、かわさき市民活動センターにはこれまで培ったノウハウがあるため、スムーズに運営できると思う。3年間のモデル事業を市民活動センターに委託実施し、SDCの運営者を検証していくのもよいと思う。
- ・ SDCと町内会・自治会の会長との信頼関係が築けるとよいと思う。いきなり町内会・自治会に入っていくのは難しいのでは。
- ・ 町内会・自治会の会長を通して、SDCの情報を発信した方がよい。全町連に相談してみてもどうか。
- ・ SDCの運営を担う職員は、地域特性を理解している必要がある。また、オールマイティな職員、専門性のある職員が3～4人いて、それぞれの活動分野に詳しいとよい。そうでなければ、地域からの相談に応じられないので、信頼を得られないのではないかな。

## (2) 自立的運営の確保

SDC を担う実施主体は、自主財源による自立的運営を基本としています。自立的運営を行うため、カフェの営業や貸会議室の収益、広告料、会費、事業への参加費等により運営資金の確保を図るなどの意見・アイデア等がありました。

「基本的考え方」では、SDC は「ビジネスモデルの導入」や「クラウドファンディングの活用」等、自主財源による運営を見据える必要があるとしています。そのため、SDC 実施主体の初期運営に当たっては、行政からの委託に頼らずに、「NPO、大学、企業との連携による運営の検討も必要」としています。なお、「基本的考え方」では、SDC 初期の運営資金の確保に当たっては、区役所の自主執行予算である「地域課題対応事業の活用（既存事業の整理）も考えられる」としています。

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ NPO 法人の主な活動内容は、カフェの運営、地域の情報紙づくり、まち歩き、地域活動団体のコーディネート、アート事業を行っている。活動区域は地区レベルである。
- ・ カフェの運営については、施設の指定管理者との契約により団体が受託している。
- ・ 会場使用料は、カフェで活動する団体から会場使用料として徴収することはしないが、利用者に対してはワンダリンク制を取っている。
- ・ カフェの運営の特徴として、日替わり店長制をとっており、曜日によって店長の入れ替わりがある。カフェの運営受託費で店長の人件費をまかなっている。
- ・ NPO 法人では、家屋をリノベーションした地域コミュニティスペースの管理運営のほか、親子が集うイベントやカフェの運営等を行っている。また、地域子育て支援センターの運営を市から受託している。
- ・ SDC のホームページ上に、企業がイベント情報等を掲載する際に、SDC は掲載団体からお金を取ってもよいと思う。SDC のホームページに掲載される情報は信頼できるという認識が広まれば、掲載料を支払っても、イベント情報を載せたいと思う。さらに、情報を掲載した団体が、イベント情報への 1 アクセスにつき、追加で掲載料を支払うような仕組みも考えられる。
- ・ SDC の主な収入源として、年会費、会場使用料、参加費、企業からのイベント情報の掲載料がなり得ると思う。
- ・ SDCにおいて、ミシン・カフェを開いてはどうか。
- ・ カフェは常時運営されているとよい。活動団体と連携して、週 1 回はこども食堂の機能を入れてはどうか。
- ・ SDCが主催する講座・研修は有料でもよいと思う。

- ・ 地域での活動場所であっても、一般的な公共施設のような金額（1回数百円など）ならば、会場使用料を徴収してもよいと思う。
- ・ カフェスペースの利用料金は、2時間までドリンク代にプラス300円、2時間以降は1時間ごとにプラス150円（最大でプラス1,200円）を徴収している。
- ・ 独自で資金調達をしていかないといけないと考えている。したがって、カフェの運営においては、提供する飲食物は無料ではなく、100円でもよいので、しっかりお金を取ることも大切である。

### （3） 検証・評価・見直し

「基本的考え方」に基づく取り組みについては、SDCの取り組みも含めて、「3年を目途にその検証と見直し」に取り組むとされています。「事業の見直し時期を事前に設定することで、惰性的な事業推進による弊害の回避」を図るためです。

そのため、中原区のSDCにおいても、創出から3年を目途に検証・評価を実施します。検証・評価を通じて、経験知を共有するとともに、見直し改善を図り、中原区にとって望ましいSDCのあり方に向けて、トライアルアンドエラー（試行錯誤）しながら、その一歩先へと進んでいきます。

## 3 運営に必要な場所について

SDCの機能には、SDC機能を担う実施団体において運営に必要な場を有していない場合には、運営する場が必要となる場合があります。

中原区役所が想定する場の候補として、中原市民館1階にある「喫茶室いこう中原」跡地と「ラウンジ」が考えられます。

「喫茶室いこう中原」跡地の利用に当たっては、SDCは使用料を支払う必要があります。フリースペースである「ラウンジ」は誰もが立ち寄りやすい場所のため相乗効果も期待できますが、現在区民の皆様がフリースペースとして活用いただいていることから、利用の方法や内容については、権利者である中原市民館との調整はもちろんのこと、現在利用されている皆様への丁寧な説明を行う必要があります。

また、中原区の区民活動支援コーナーである中原区民交流センター「なかはらっば」（以下「なかはらっば」という。）には、打合せに利用できる会議室や会議資料やチラシを印刷できる印刷室等があります。中原区におけるSDC創出に当たっては、「なかはらっば」の管理運営等について、SDCとの機能分担、またはSDCの一部機能とすることを併せて検討する必要があります。

なお、運営に必要な場所について、インターネット技術により、パソコンやスマートフォン等を用いて、社会的なつながりを提供するサービスであるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用することで、必ずしも空間としての固定的・専有的な場所は必要ないとの意見もありました。

「基本的考え方」では、SDCについて「最終的には区ごとに1か所の設立」を目指としています。また、色々なテーマや規模ごとに「複数のプラットフォームが併存」することも考えられるとしています。その場合には、SDCの機能、エリア、運営主体等のあり方についてさらに検討する必要があります。

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- SDCの場所は、市民館のカフェスペースがよいと思う。wi-fiと電源は利用できた方がよい。
- 中原区におけるSDCの場所は中原市民館がよいと思う。武蔵小杉駅は、電車・バスのアクセスがよいほか、買い物ついでに訪れられるため、使い勝手がよい。
- SDCには物理的な場があり、キッチン付きがよい。
- SDCや「まちのひろば」は、物理的な「場」でなくてもよい。物理的な場よりも、「人とのつながり」が大切。場ではなく仕組みを示す「まちの人・和」といったキーワードはどうか。人がつながるための事務局機能をSDCが担うと位置付けてはどうか。事務局機能には物理的な場所が必要であるから、かわさき市民活動センターが担うこともありだと思ふ。
- SDCには「場」が必要であると思ふ。それは物理的な場でもウェブ上の場でもよい。
- 地区社協の5地区の区分けはピンとこない。エリアで線引きすると対応できないこともあると思ふ。子育て世代は、学区で生活圏を分けていると思ふ。
- NEC玉川事業場の一部をSDCの設置場所に使えないかと思ふ。フルオープン型ではなくて、利用には一定の条件（セキュリティのルールなど）が必要であると思ふ。
- 町内会館の一般開放はハードルが高い。ある町内会・自治会の町内会館は、利用できるのは「その地域の住民のみ」という利用条件があるため、容易に使うことはできない状況。利用には相当な根回しが必要であると思ふ。
- SDCの設置場所は、杖をついて来られる距離感（小学校区）が理想的。
- 中原区にはかわさき市民活動センターがあるので、その機能があれば中原区にはSDCは必要ない。
- カフェは人と人との交流が生まれるモーターの役割を果たしている。
- インフルエンザ等の感染症が流行すると、施設利用できなくなってしまうリスクがある。
- 地域で活動をする上で、キッチン（調理室）の需要は高い。
- 地域での活動場所であっても、一般的な公共施設のような金額（1回数百円など）ならば、会場使用料を徴収してもよいと思ふ。
- カフェスペースでは地域住民が憩えるほか、コワーキングスペースとしての利用も想定している。
- イベントを前面に押し出すのではなく、「意味もなく来られる場」、「ふらっと寄ればお話しできる場」を提供できるとよい。
- SDCに来所する動機付けとして、カフェスペースのほか、パン屋や花屋などがあってもよいと思ふ。ただ相談機能があるだけでは、人は集まらないと思ふ。
- ふらっと寄れる場所にするには、立派な施設よりも、空き家や古民家がよいと思ふ。高齢者向けの入所施設・住宅は衛生面の基準があり、使いにくい傾向がある。

(参考)「喫茶室いこう中原」跡地と「ラウンジ」

場所 中原区新丸子東3-1100-12 中原市民館 1階

現況 喫茶室厨房…空室、ラウンジ…フリースペース

面積 約104㎡ (「喫茶室いこう中原」跡地 約19㎡、「ラウンジ」約85㎡)



喫茶室厨房



ラウンジ



ラウンジ(2階から撮影)

(参考)「なかはらっぱ」

場所 中原区小杉町3-245 中原区役所 5階

現況 区民活動支援コーナー (会議室、印刷室、  
掲示・情報コーナー、フリースペース)

面積 約65㎡



#### 4 運営日・運営時間

SDCの具備する機能にもよりますが、相談窓口や交流スペースなどを運営する場合は、土曜日、日曜日、祝日にも運営を行うなど、区民の皆様が利用しやすい運営日・運営時間を設定することが望まれます。

参考のため、中間支援機能が期待されている主なスペースの運営日・運営時間を示します。

・「なかはらっぱ」 (中原区小杉町3-245 中原区役所 5階)

運営日 : 月曜日～金曜日 (土曜日、日曜日、祝日、年末年始 (12/29～1/3) を除く)

運営時間 : 午前9時～午後4時 (窓口開設は月曜日・水曜日・金曜日 (午後12時～午後1時は昼休み))

・かわさき市民活動センター (中原区新丸子東3-1100-12)

運営日 : 月曜日～日曜日 (第3月曜日 (祝日の場合は翌日)・年末年始 (12/29～1/3) を除く)

運営時間 : 午前9時～午後9時

・川崎市社会福祉協議会 (ボランティア活動振興センター) (中原区上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター)

運営日 : 月曜日～金曜日 (土曜日、日曜日、祝日、年末年始 (12/29～1/3) を除く)

運営時間 : 午前8時30分～午後5時

(ヒアリングで出された意見・アイデア等)

- ・ 区民が利用しやすいよう土曜日、日曜日、祝日も運営している。
- ・ 誰もがいつでも訪れられる場が意外に少ない。いつでも来られる場所がほしい。
- ・ SDCを利用する際に、午前・午後だけの区分の貸出しは使い勝手がよくない。1時間単位で利用できた方がよい。
- ・ 高齢者にとっては時間にしばられると厳しい。体調に左右されない形で、例えば、9時～12時の間で出入り自由といった時間区分の方がよい。

## 5 SDCと「地域レベル」、「市域レベル」のしくみとの関係

### (1) SDCと「まちのひろば」との関係

身近な地域の中で様々な活動やつながりづくりを進める地域レベルの「まちのひろば」に対して、区域レベルの「SDC」は、市民創発型の多様な主体の連携により、区域全体をカバーするテーマ包括的なプラットフォームです。

「基本的考え方」では、SDCは、「まちのひろば」や、「サブプラットフォーム」（テーマや地域別に展開する多様なネットワーク）などの区域内の様々な活動に対して、コーディネートや求められる支援を行うとしています。

### (2) SDCと市域レベルの「中間支援組織」の関係

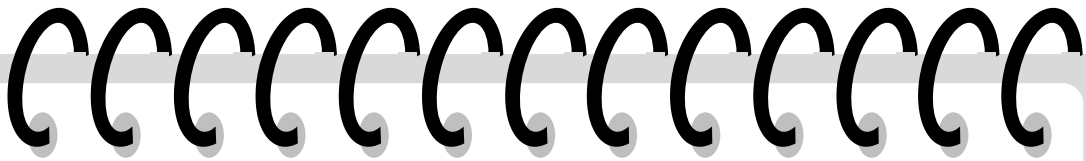
「基本的考え方」では、「全市的な中間支援機能を担う各出資法人等においては、かわさき市民活動センターが中核となって、区域レベルの『ソーシャルデザインセンター』との連携を進め、テーマに応じて柔軟に役割を果たし合えるような関係性を作り出し、これまでの蓄積を生かしつつ、ダイナミックに展開される市民活動に対応した機能・体制を構築」するとしています。

中原区内における「全市的な中間支援機能を担う各出資法人等」としては、公益財団法人かわさき市民活動センター、社会福祉法人川崎市社会福祉協議会、公益財団法人川崎市市民自治財団等が考えられます。

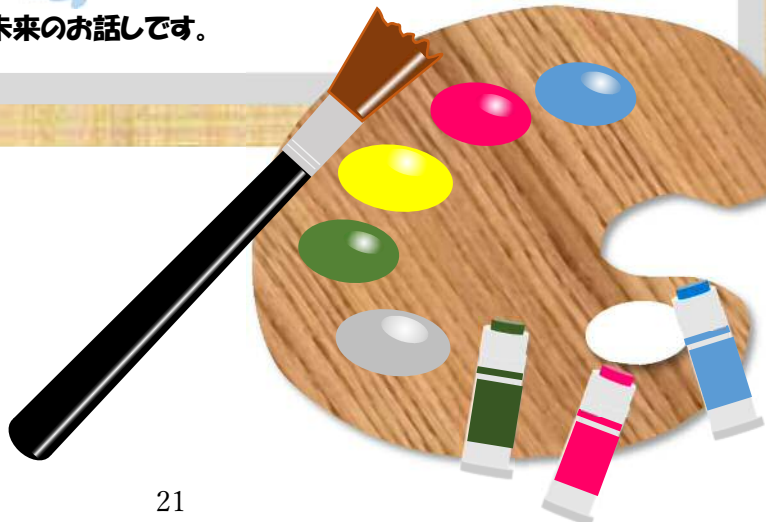
中原区のSDCは、これらの中間支援組織が区内に立地している地の利も生かしながら、連携していく必要があります。

## 6 中原区らしいSDCのスケッチ

中原区らしいSDCのイメージを物語り風にスケッチしてみました。



- ・中原区のソーシャルデザインセンターは、いつでも誰でも来られる、集まりやすい場所にあります。
- ・いつもはお茶を飲んだりランチもしたいができるような場所ですが、日ごろの生活で「ちょっと困ったなあ」「こんな時どうしようかな」、「なんとなく何か始めたいなあ」と思ったときに、情報を入手できたり、その場にいるスタッフが声をかけてくれたり、気軽に相談に乗ってくださいます。とても親身に話を聞いてくれるので、身近にソーシャルデザインセンターがあって良かったなという気持ちになります。
- ・何かを始めたいときに応援してくれます。自分の興味にあった楽しいサークルを紹介してくれたり、一緒に活動する仲間を紹介してくれたりします。ときには自分で取り組みを始めたいと思った気持ちをつぶやくと、気さくなスタッフが企画と一緒に考えてくれたり、相談相手となる地域の隠れた達人や名人を紹介してくれたりもします。引き合わせてもらった達人や名人は活動やイベントの参加者をたくさん集める方法やチラシづくりの秘策などを教えてくれます。何気ない一言から地域での活動を応援してくれる新しい仲間を見つけることができ前よりちょっとだけ楽しく毎日を過ごすことができます。
- ・区内で活動する様々な人達と出遇い、交流できるイベントが開催されています。区内の人・団体・企業や資源・活動を知ること、自分のやっていることがもっと充実し、ときには、なにか素敵な活動が「顔の見える関係」から生まれることもあります。
- ・区内の多様な人達が地域で活躍できるように色々な講座や研修が開かれています。興味のある講座や研修に参加することで、活動へのヒントを貰えるなど、地域で活動を始めるきっかけになります。
- ・中原区のソーシャルデザインセンターをきっかけにして、会えば大きな声で笑いあい、ときには一緒に悩んでくれたりする友達が身近にできたいと、自分の生活がちょっと楽しくなり自分の住み慣れた地域に愛着と誇りを持って、これからも住み続けたいと思えます。
- ・これは中原区のちょっとだけ未来のお話しです。



## 7 今後の検討の進め方（予定）

今後の検討の進め方の予定は次のとおりです。

なお、スケジュールについては、SDC創出に向けた議論の進み具合や、SDCを運営する団体の決定などの状況によっては、変動すること考えられます。

### 令和2（2020）年度

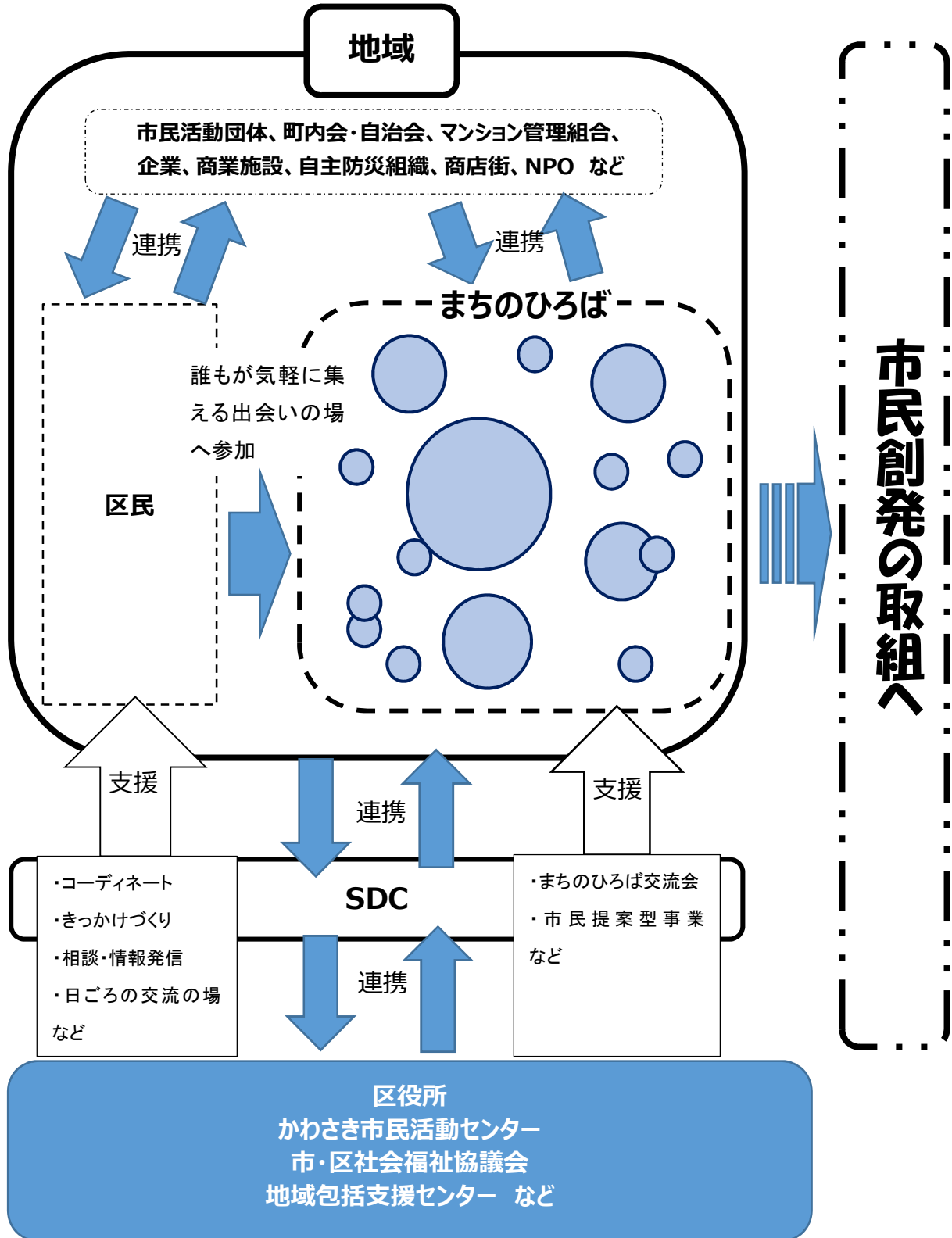
- ・庁内意見聴取（4～6月）
- ・「SDC創出に向けたスケッチブック」を素材に、ヒアリングを行った人など市民活動等に知見を有する人との個別意見交換を実施（7月～9月）
- ・SDC創出に向けた庁内検討プロジェクトの実施（10～11月）
- ・「SDC創出に向けたデッサン」（中間とりまとめ）を作成、公表（11月）
- ・中間とりまとめに対する区民意見の募集（11月～12月）
- 自由参加による「（仮）SDC実現に向けた区民検討プロジェクト」の実施（11月～2月）
- ・「SDC創出に向けたデッサン」の策定（3月）

### 令和3（2021）年度以降

- ・SDC開設の準備（運営組織の決定・協定書の締結など）
- ・SDC開設

※新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を勘案し、実施手法を検討してヒアリング、意見交換等を行います。

参考 SDC と地域との関係イメージ



※区役所などがその役割として SDC を通さず直接支援等を行うものもある





中原区におけるソーシャルデザインセンター創出に向けたスケッチブック

令和3（2021）年3月

川崎市中原区役所まちづくり推進部企画課

〒211-8570 川崎市中原区小杉町3-245

電話：044-744-3149 FAX：044-744-3340

E-mail：[65kikaku@city.kawasaki.jp](mailto:65kikaku@city.kawasaki.jp)